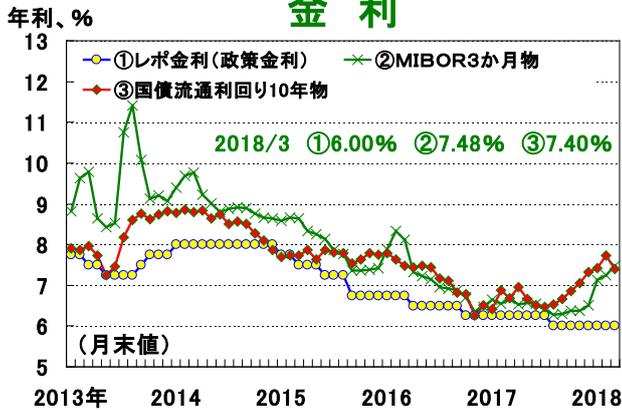


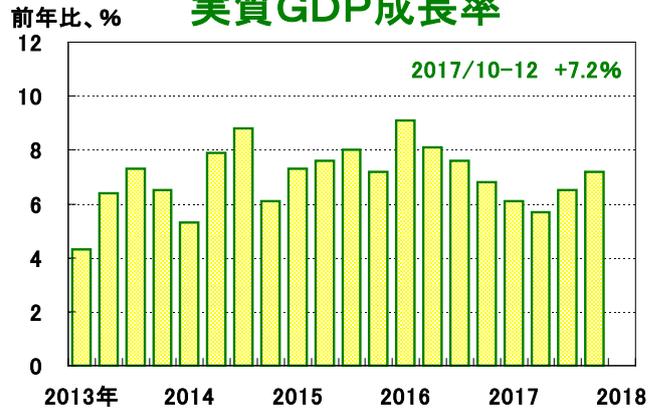
# グラフで見るインド経済 2018年4月号(No. 100)

インド景気は緩やかな回復基調にある。OECD景気先行指数は、2017年11月に長期平均線を超え、その後も上昇を続けている。2018年2月の輸出は前年比+4.5%（前月は同+9.1%）と減速したものの、4か月連続で増加している。同月のコア産業生産指数も同+5.3%と伸びが底堅く推移した。3月の製造業PMIは51.0と低下したものの、8か月連続で中立水準の50を上回っている。製造業の景況感は足元で緩やかな改善が継続している。内需をみても、2月の新車販売台数が前年比+7.8%（前月は同+7.6%）と堅調に増加した。

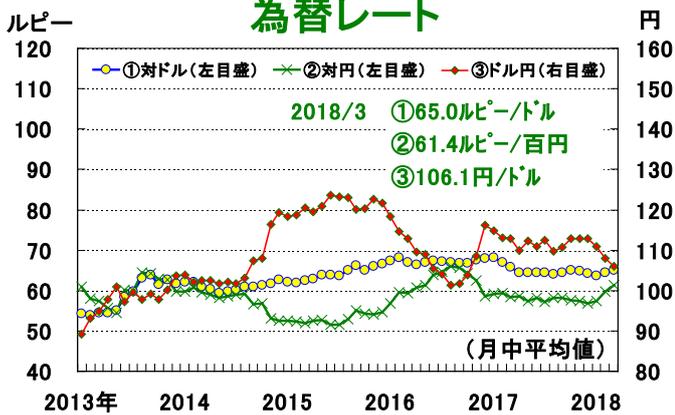
## 金利



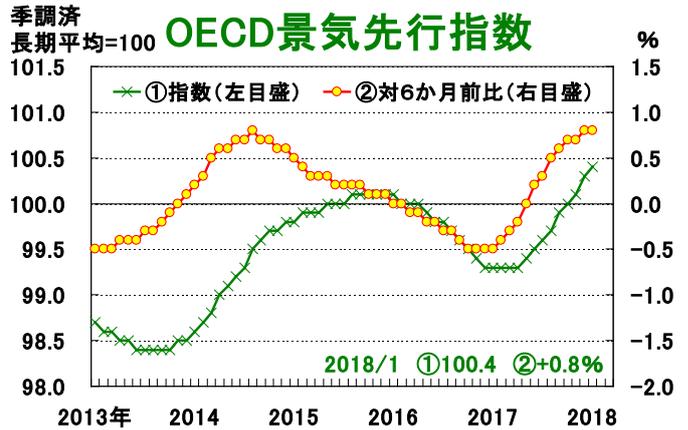
## 実質GDP成長率



## 為替レート



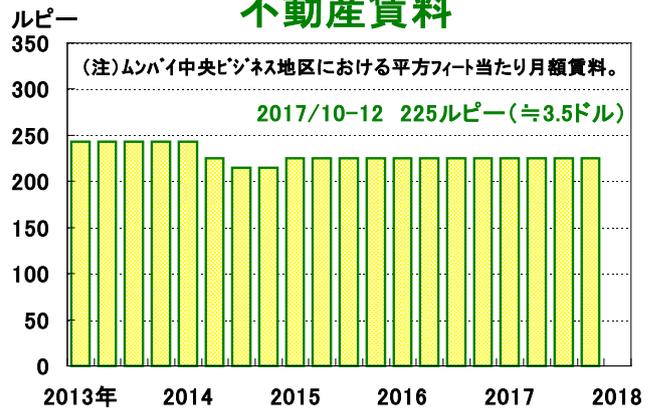
## OECD景気先行指数



## ムンバイ指数(株価)



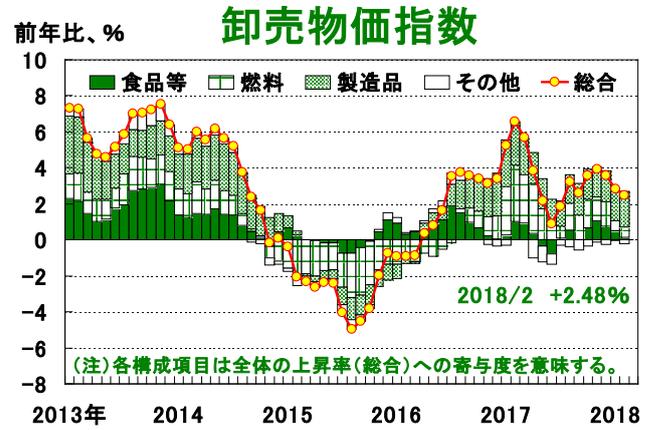
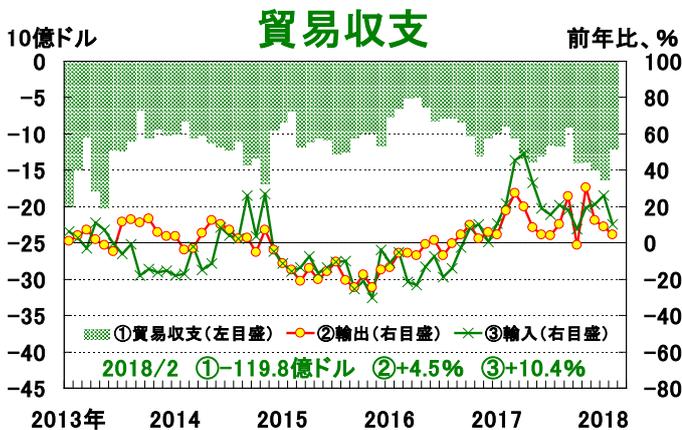
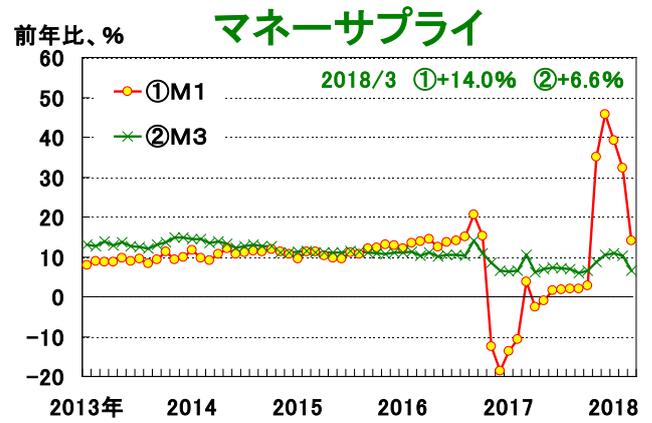
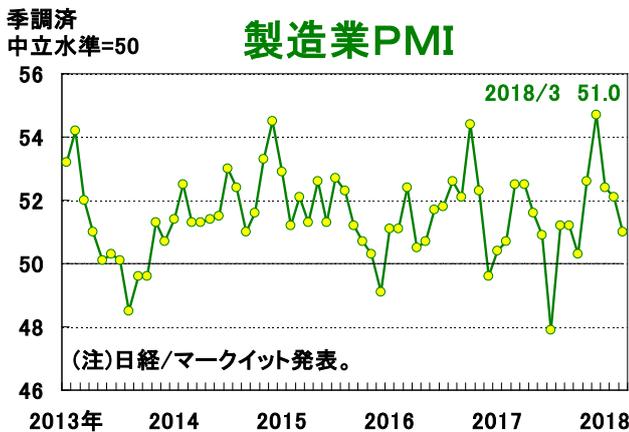
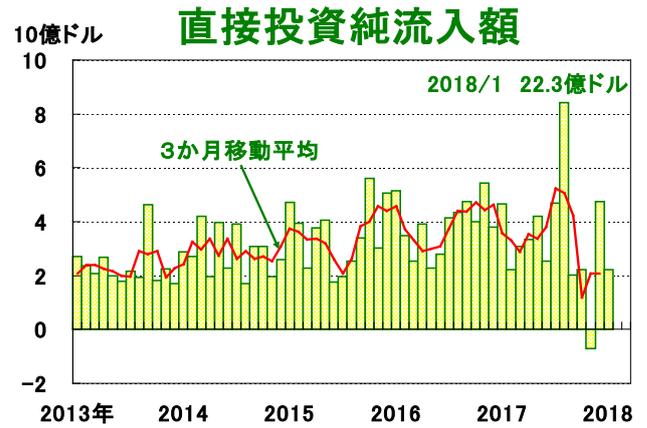
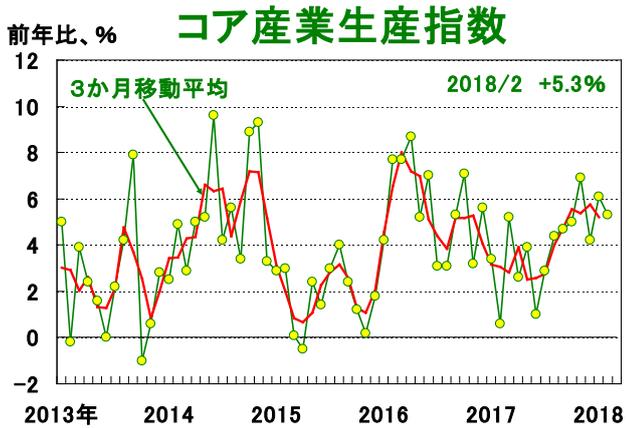
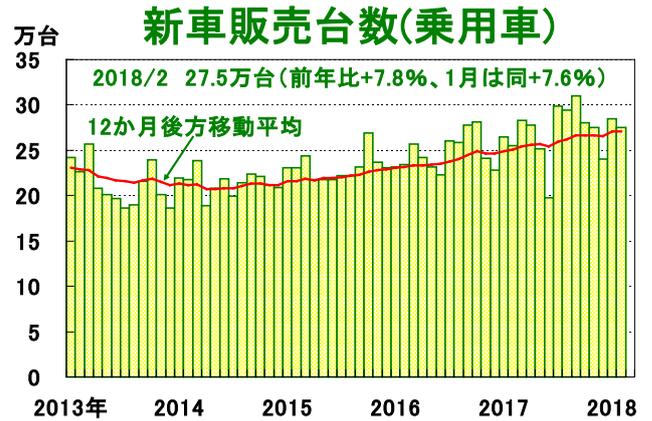
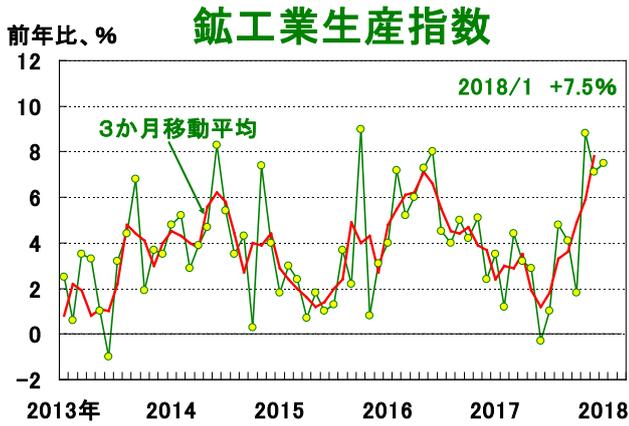
## 不動産賃料



**【今月のトピック:米国の鉄鋼・アルミ関税に神経をとがらすモディ政権】** 3月8日に、トランプ米大統領は鉄鋼とアルミニウムの輸入品に対し、追加関税を導入する大統領令に署名した。対象となる鉄鋼・アルミ製品のうち、インド製品の占めるシェアは約2%にすぎない。しかしながら、モディ政権は米国の保護主義に神経をとがらせており、カナダやメキシコと同様に追加関税の適用を除外するよう、米国政府に働きかけている。一方、インド政府は昨年12月以降、電子機器や自動車部品など広範な輸入品の関税を相次いで引き上げている。このため、インドの保護主義政策も米国と同様に各国から批判されている。

(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。